

三谷地区 かわら版 第3号

三谷地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

蒲郡市では、今後の人口減少・少子高齢化が進む社会情勢を見据え、公共施設の維持更新費用で将来に大きな負担を残さないため「身の丈にあった」施設保有量に適正化していく取り組みを進めています。

そこで今年度、三谷地区では、地区内の公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来のあり方について皆さまに考えていただく機会として「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。11月25日（日）に三谷小学校にて行われた第3回ワークショップの様子をお伝えします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップ参加者の皆さんと共有し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップでのご意見をはじめ、地区の皆さまのご意見を踏まえて、三谷地区の将来の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」の検討を進めています。第3回ワークショップでは、前回までに話し合われた「地区の課題・ビジョン」をもとに、市が作成した「施設の再配置プラン」について意見交換を行いました。



11/25開催
第3回ワークショップ
各再配置プランの期待できることや不安なこと、さらに良くするにはどうしたらよいかなど、6～7人のグループに分かれて意見交換を行いました。



次回のワークショップでは、第3回ワークショップでのご意見を踏まえた再配置プランの追加案も含め、各プランを評価・比較するための指標について検討を行う予定です。

市が提示した再配置プランの考え方

第2回ワークショップまでの検討内容をもとに、地区の課題の解決策を13個の項目として整理しました。

市は、これらの課題の解決策を様々なパターンで組み合わせることで、コンセプトの異なるA～Dの4つの再配置プラン案（検討のためのベース案）を作成しました。（下図のとおり）

すべての課題を満足に解決する案を作成することは困難ですが、再配置プランを比較しながら、より多くの課題を解決する再配置プランはどういったものか、新たに追加・修正すべきことはないか等、様々な検討をすることが必要です。

再配置を通じた解決策

- ① 地区の中心となる活動拠点の整備
- ② 小学校の統合
- ③ 子どもの居場所の確保
- ④ 子育て関連機能の集合
- ⑤ 小学校内への児童クラブの設置
- ⑥ 多世代・同世代で活動・交流できる場の整備
- ⑦ 公民館機能とその他機能の関係強化
- ⑧ 津波・高潮からの安全確保
- ⑨ 避難所・避難場所の適正配置
- ⑩ 1カ所で多様な活動を行える環境の整備
- ⑪ 十分な駐車スペースの確保
- ⑫ 施設数の縮減
- ⑬ 費用対効果の高い移転先の選定

再配置プラン案（検討のためのベース案）

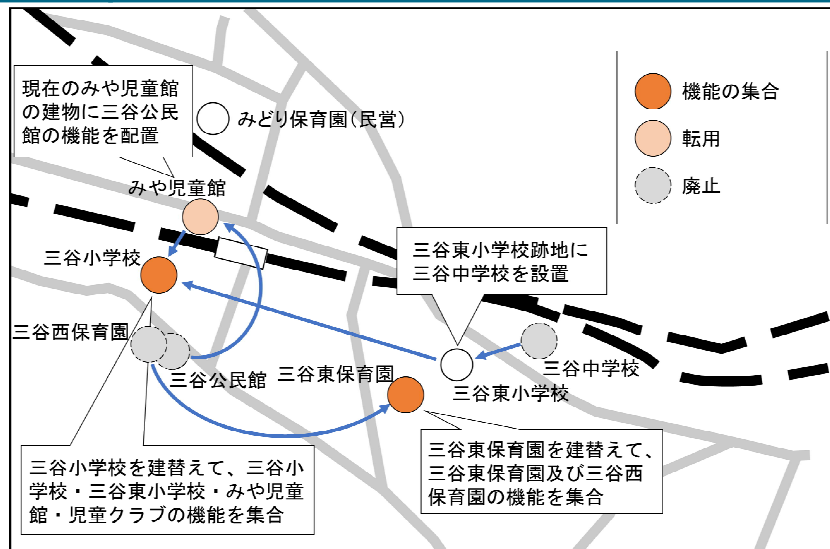
- | | |
|----|---------------------------------|
| A案 | 子どもに関わる機能を集めて子どもが育ちやすい環境を整えるプラン |
| B案 | 使いやすく充実した地域活動と保育の拠点をつくるプラン |
| C案 | 将来を担う中学生が地域活動に関わりやすくするプラン |
| D案 | 通学のアクセスを維持するプラン |

※ 矢印は、解決策のうち特に重視した解決策と再配置プランとの関係性を表しています。

4つの再配置プラン案についての議論内容

第3回ワークショップでは、地区の課題の解決策をもとに、市が作成した4つの再配置プラン案について議論しました。それぞれの案について、期待されること、懸念されること、追加修正すべきこと等のご意見をいただきました。なお、実際の施設整備は施設の老朽化具合や他地区・他施設の計画等を踏まえ、段階的に行っていくこととなります。
(○：期待 ●：懸念・確認等)

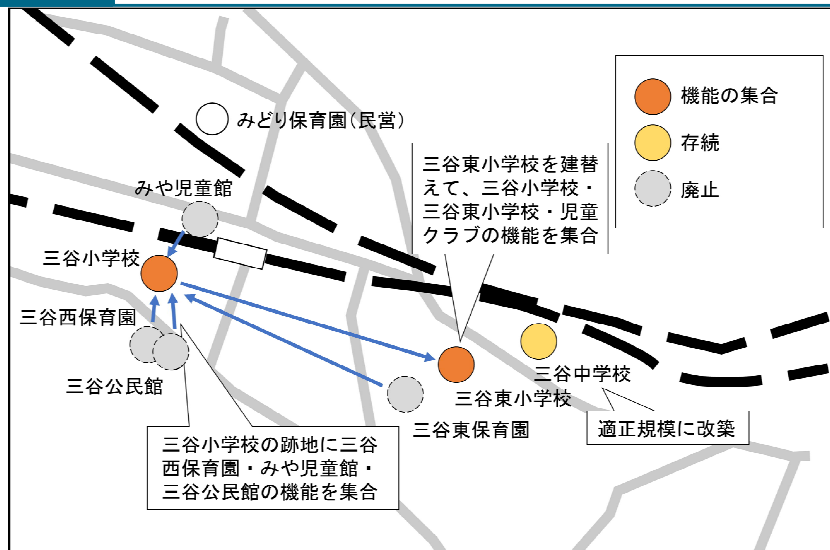
A 子どもに関わる機能を集めて 子どもが育ちやすい環境を整えるプラン



【議論の内容】

- 三谷小学校は比較的地区の中心に位置し、歴史的経緯や通学の利便性を考えると、三谷小学校敷地での統合はよいと思う。
- 中学校は(立地的に)不便なため、人口が多いエリアに移転されるのは良い。
- 児童クラブが小学校の中で運営されるのは、安心・安全である。**(全案共通)**
- 三谷小学校敷地での多機能化は、狭すぎないか。周辺道路の集中しすぎるのも心配だ。
- 公民館は、三谷祭の拠点の役割を担っていること、高齢者の徒歩利用が多いこと、移転先の児童館敷地の駐車場スペースも少ないことから、現地から離れている児童館への移転は不安だ。

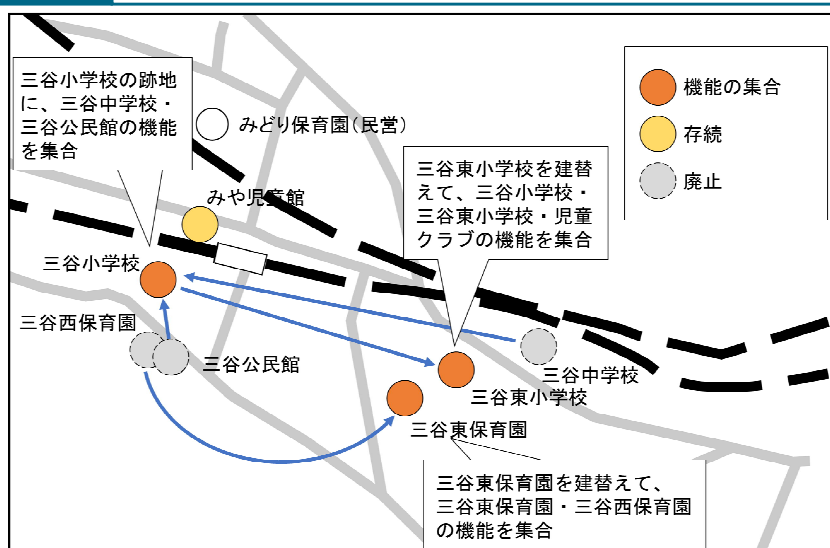
B 使いやすく充実した 地域活動と保育の拠点をつくるプラン



【議論の内容】

- 小学校跡地の広い敷地で保育園等の機能を集めることは、駐車場の充実や施設の一体的な利用、災害対策の観点から良いと思う。(ただし、通学の負担を考慮し、三谷小学校敷地でなく、三谷東小学校敷地の方に集めるべきだ。)
- 地区の東側に位置する三谷東小学校の敷地で小学校が統合されると、通学に不便な子どもが増えてしまうのではないかと心配だ。特に低学年の児童の負担が大きいのでは。**(B・C案共通)**
- 地区のコミュニケーション活動には小学校の存在が欠かせないので、地区の中心付近にある三谷小学校は現地に残して欲しい。

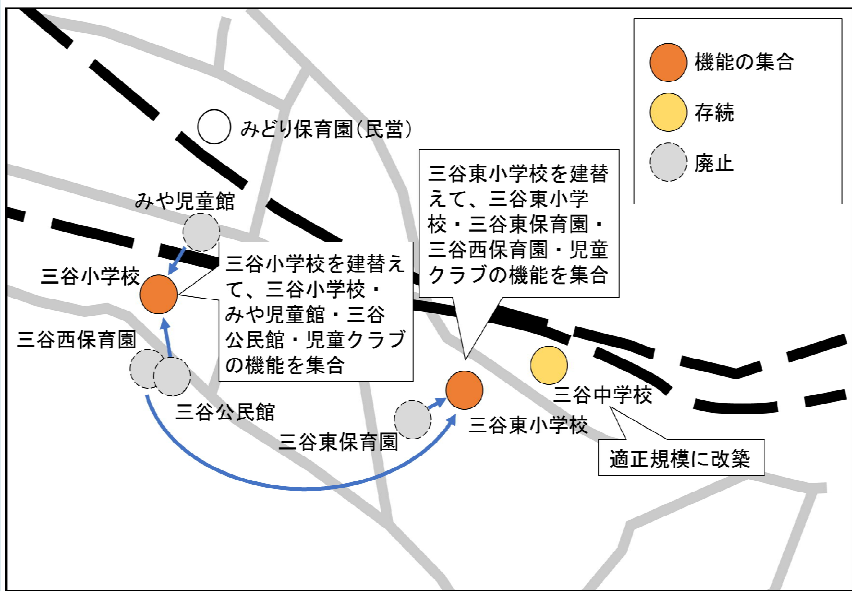
C 将来を担う中学生が地域活動に関わりやすくするプラン



【議論の内容】

- 地区の東端にある三谷中学校が、人口の多いエリアに移転される点は良い。
- みや児童館は現在の配置でも十分利用されており、施設も新しいため現地で機能を継続させることは良い。
- 中学校が三谷小学校敷地に移転するのであれば、敷地面積が狭いのでグラウンドも狭くなってしまわないかと心配だ。災害時により強い高台で維持する方が良い。
- 地域活動への関わりについては、中学生より小学生の方が重要であり、関わりを持ちやすいと思う。
- 保育園については、十分な施設規模と駐車スペースの確保の観点から、敷地面積の広い小学校の敷地を使って統合すべきだ。**(A・C案共通)**

D 通学のアクセスを維持するプラン



【議論の内容】

- 現状の施設配置に近く、小学生のアクセス面など利用者の負担が低く抑えられそうだ。
- 現状では小学校が統合することに同意を得るのは難しいと思う。当面は両方の学校を残し、子どもの数が減った時点で地区の真ん中に新たな小学校を作れると良い。それに向けたステップとして、この案がよい。
- 小学生の児童数の減少を踏まえると小学校の統合をしないという方向性は考えにくい。また、小学校を統合しないと、教育上や部活選択の面でも心配である。親としては、1学年に複数クラスのある環境で育てたい。
- 小学校と保育園では目的が異なるため、同じ敷地でそれぞれの役割を果たせるか心配だ。
- 2つの保育園を統合せず、それぞれの小学校に保育園を設けてはどうか。三谷西保育園の利用者のアクセスも保たれる。

複数案に共通する議論・その他の議論

公民館について

- 三谷公民館は津波・高潮の想定浸水域に位置し危険なので、できるだけ早く移転すべきだと思う。
- 三谷公民館は、高齢者の徒歩でのアクセス性や三谷祭の拠点としての利用のしやすさを踏まえると、現在の場所と距離の近い三谷小学校に移転するのが望ましい。

保育園について

- 三谷西保育園は津波・高潮の想定浸水域に位置し危険なので、全ての案で移転することになっているのは好ましい。優先度を上げてできるだけ早く移転すべきだと思う。
- 保育園の送迎は車でしている人がほとんどなので、自宅から徒歩圏にある必要はなく、むしろ駐車場が充実しているほうが利便性が高いと思う。運営の効率が高まることも考えると、2つの保育園を統合するのは良い。

児童館について

- みや児童館の建物はまだ新しく、今の立地で十分利用されているので、移転後の活用方法が特になければ無理に機能を移設する必要はない。

その他

- まちの将来像を長期的な視点で考え、その実現に向けて、短期・中期的に何を考える必要がある。
- 三谷地区の人口が今後増えることがないと考えると、学校区を変更して児童が戻ったとしても長期的に抱えている問題を解決できないだろう。小学校の統合を含めて議論せざるをえない時期に来ていると思う。
- 小学校の統合が今回の議論の中心になっていないかった。
- 案の検討をスムーズに進めるために、改めて複合化の事例を示し、メリット・デメリットを整理してほしい。

学校区と行政区について

これまでのワークショップの話し合いの中で、三谷町西区の一部が竹島小・蒲郡中学校区の通学区域であることについてのご意見をいただいています。

課題としてあげられたご意見

- 三谷小学校の児童生徒数が減少し、学校規模が縮小していることから、三谷町西区で竹島小学校区になっている地域の児童を三谷小学校に戻すべき。

意向調査に関するご意見

- 学校区変更の有無や小学校統合の必要性について議論した上でないと、再編案の検討に入れないのではないかと。
- 学校区の変更については、変更される地域の当事者の意向が尊重されることなので、意向調査を実施すべきだ。
- 当事者の保護者には学校区についての問題意識はあまりないだろう。しかし、意向調査の実施により、児童の減少やそれに伴う小学校の統合などの課題への気づきを喚起することにもつながるのではないかと。
- 意向調査は、保護者に対してだけでなく子ども達や三谷地区住人に対しても実施してほしい。保護者とは異なる意見があるかもしれない。
- 地区住民としては竹島小に通う三谷町の子ども達が三谷小に戻ってきて欲しい気持ちはあるが、当事者である保護者の意向とは異なることが予想されるので難しい問題だ。それでも、三谷の歴史や住民の想いを伝えてコミュニケーションを図るべきだ。

- 学校区と行政区が一致していないことが、三谷町の一体感を欠く要因になっている。
- 小学校の再編が難しいのであれば、地域とのつながりを意識する中学生の段階で三谷中学校に通うようにすればよい。中学生であれば自転車通学ができるため、負担は少ない。



子どもの数の減少に伴い、学校のクラス数が減っていきます

児童生徒数の減少により、学校規模の縮小(クラス数の減少)が想定されます。

再配置プラン案(中面に掲載)では学校を統合するプランを提示しています。学校の統合を検討する際には、学校規模がどれくらいが適正かを考えていく必要があります。

児童生徒数推計(右表)から、三谷小学校については、将来的に全学年1クラスの水準になると想定されます。三谷東小学校においても、国立社会保障・人口問題研究所の推計値に基づく計算では全学年1クラスの水準になると想定されます。

また、クラス数の減少のほかに、部活動の選択肢の減少などが将来的に考えられます。

表 三谷地区児童生徒数推計

(1クラス:35人換算)

	平成30年度		平成36年度予測		目標値ベース30年後			社人研推計値ベース30年後		
	児童生徒数(人)	普通学級クラス数	児童生徒数(人)	普通学級クラス数	児童生徒数(人)	1学年換算(人)	クラス数換算	児童生徒数(人)	1学年換算(人)	クラス数換算
三谷小学校	215	9	189	7	186	31.0	6	148	24.7	6
三谷東小学校	303	12	270	12	262	43.7	12	208	34.7	6
三谷中学校	294	9	231	9	254	84.7	9	202	67.3	6
三谷・三谷東小学校統合(仮定)	518	18	459	17	448	74.7	18	356	59.3	12

<推計値の計算方法>

○ 平成36年度予測
⇒現在の三谷地区の未就学児の人口から算出。

○ 目標値ベース30年後
⇒「蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の市目標値における蒲郡市の年少人口の変動率を三谷地区の各学校の平成30年度の児童生徒数に乗じて算出。

○ 社人研推計値ベース30年後
⇒国立社会保障・人口問題研究所の将来推計値における蒲郡市の年少人口の変動率を三谷地区の各学校の平成30年度の児童生徒数に乗じて算出。

再配置プランを評価するための9つの視点

第3回ワークショップでは、再配置プランを評価する指標として、これまでのワークショップでのご意見をもとに整理した三谷地区の皆様が大切だと思っている9つの視点を活用することを確認しました。これらの視点にもとづいて、再配置プランの評価・比較を行い、絞り込みを進めていきます。

① 地区のまとまり

② 地区の活性化

③ 学校教育環境の適正化

④ 子育てしやすい環境づくり

⑤ 多世代が活動・交流できる場づくり

⑥ 防災・防犯

⑦ 利便性の確保

⑧ 将来負担の縮減

⑨ 運営の改善

ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を踏まえて「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 三谷地区のまちづくりや公共施設について

ご意見をお待ちしています!!



将来、三谷地区はどんな地域になってほしいですか。日々の生活で感じる些細なことで構いません。以下のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

次回ワークショップのお知らせ

日時：平成31年1月20日(日)
午後1時30分～午後4時30分
場所：三谷公民館 大集会室
内容：再配置プランの評価・比較について

どなたでも傍聴ができます。傍聴ご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当

〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp
TEL 0533-66-1158
FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、詳しくは市HPをご覧ください。

